

佳作

あきらめなかつたらのれたよ

埼玉県伊奈町立小針小学校二年 米山 連翔

ぼくはじてん車にのれるように、公園やおじちゃんやおばあちゃんのいえに行く時、トントン、パを、いっぱいがんばりました。まわりのおともだちを見て、じてん車のれんしゅうをやるうと思いました。でも、なかなかうまくいけなくて、いっぱいころんだり、足がペダルにあたって、大きなあざができました、ころびすぎて、

「もう、やらない。」

と言って、近じよの人のいえの前で、ないてすてかえってしまって、おかあさんにおこられたりしました。くやしくてないたり、いたくてないたりしました。いつも、

「がんばって。」

と言って、そばでおかあさんやいもうとがささえてくれました。そのたびにあきらめずにさいごまでが

んばりました。おじいちゃんやおばあちゃんもおうえんしてくれました。

夏休みのさいしょの日曜日、中ぶ公園で、おかあさんといもうととおかあさんのおともだちと、じてん車のれんしゅうをすることにしました。ヘルメットをかぶって、さいしょはじ分で、トントン、パッと、じてん車のバランスをとるれんしゅうを三しゅうしました。

「もう、やらない。」

と言っていると、おかあさんのおともだちが、うしろとハンドルをもって、三しゅうしてくれました。つぎに、おかあさんが、うしろをもってつき合ってくれました。さいごにやったら、と中でのれるようになりました。のれた時、「のれたのかな」と下をむいて見ると、こげてて、うれしかったです。のつたら、風があたっていい気もちになりました。みんなが、

「すごいね。」

「できたね。」

と言ってくれてうれしかったです。

あきらめないでやってよかったなと思いました。おじいちゃんとおばあちゃんに、でん話で教えたら、

「すごいね。」

と、よろこんでくれて、うれしい気もちになりました。あきらめなかったら、なんでもできるんだなと思えました。これからもあきらめないでなんでもやるうと思えます。